

日本赤十字社における 今後の原料血漿確保に向けた対応について



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の基本的な方針

日本の血液事業は、1949年(S24)にGHQの招集のもとに厚生省・東京都・日本医師会・日本赤十字社・学識経験者による「輸血問題予備懇談会」が開催され、日本赤十字社を中心として進められることとなりました。

更に、1964年(S39)の閣議決定に基づき厚生省が定めた「献血推進対策要綱」では、献血の受入環境整備については、都道府県と日本赤十字社が密接な協力体制を確立することとされ、それに従って日本赤十字社は全国各地で献血受入を行って参りました。

また、2002年(H14)の改正血液法では、採血事業者は、国が策定する献血推進計画に沿って献血受入を推進することとなり、日本赤十字社は、現在、国内唯一の採血事業者としてその責務を負っております。

このような歴史的な経緯を経て、これまで、日本赤十字社は、国民の皆様の協力を得て、輸血用血液製剤の確保はもとより、分画製剤の国内自給率向上のために必要とされる原料血漿量も不足なく確保して参りました。

引き続き、国民の医療需要のために必要となる原料血漿についても、国・地方公共団体と共に献血推進団体等の御協力をいただきながら、日本赤十字社の使命として、その全てを確保していく所存です。

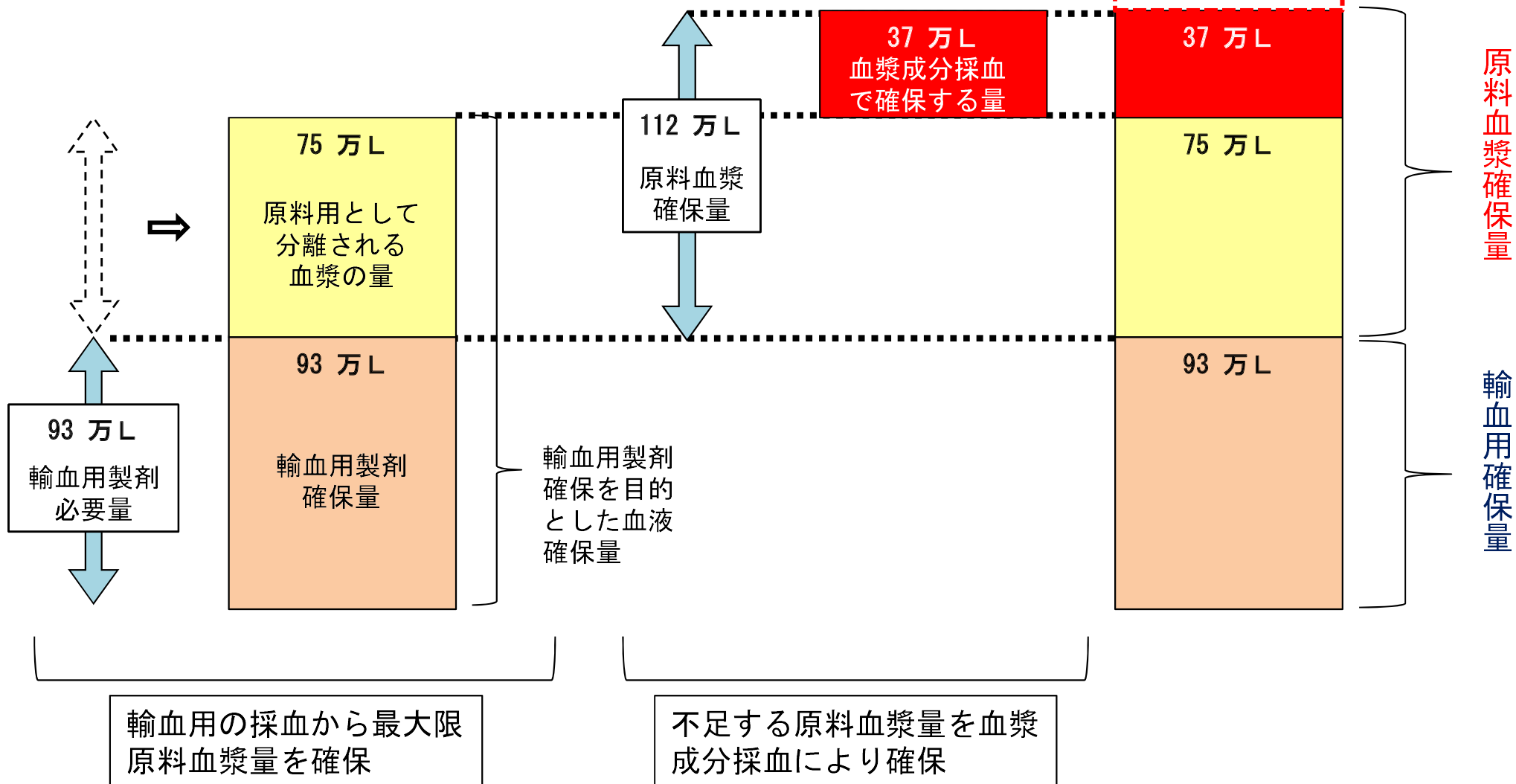
1. 今後の原料血漿確保の方策について

原料血漿確保方法の考え方

※量は2019年度（平成31年度）の事業計画値

（検査不合格等を勘案し、確保する血液量は213万Lとなる）

今後原料血漿の必要量が増加した場合は血漿成分採血で確保



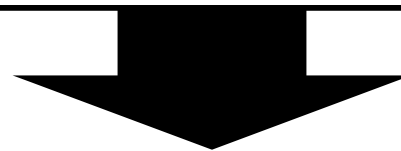
原料血漿確保量増加に向けた取り組みについて

輸血用確保から得られる血漿量の増加対策

- 1 血小板成分採血の血漿採取量の増量
- 2 成分採血由来血漿製剤 (FFPLR480) の製造工程における血漿分離
- 3 自動遠心分離装置の導入
- 4 P A S 血小板製剤の導入

血漿成分採血で確保する血漿量の増加対策

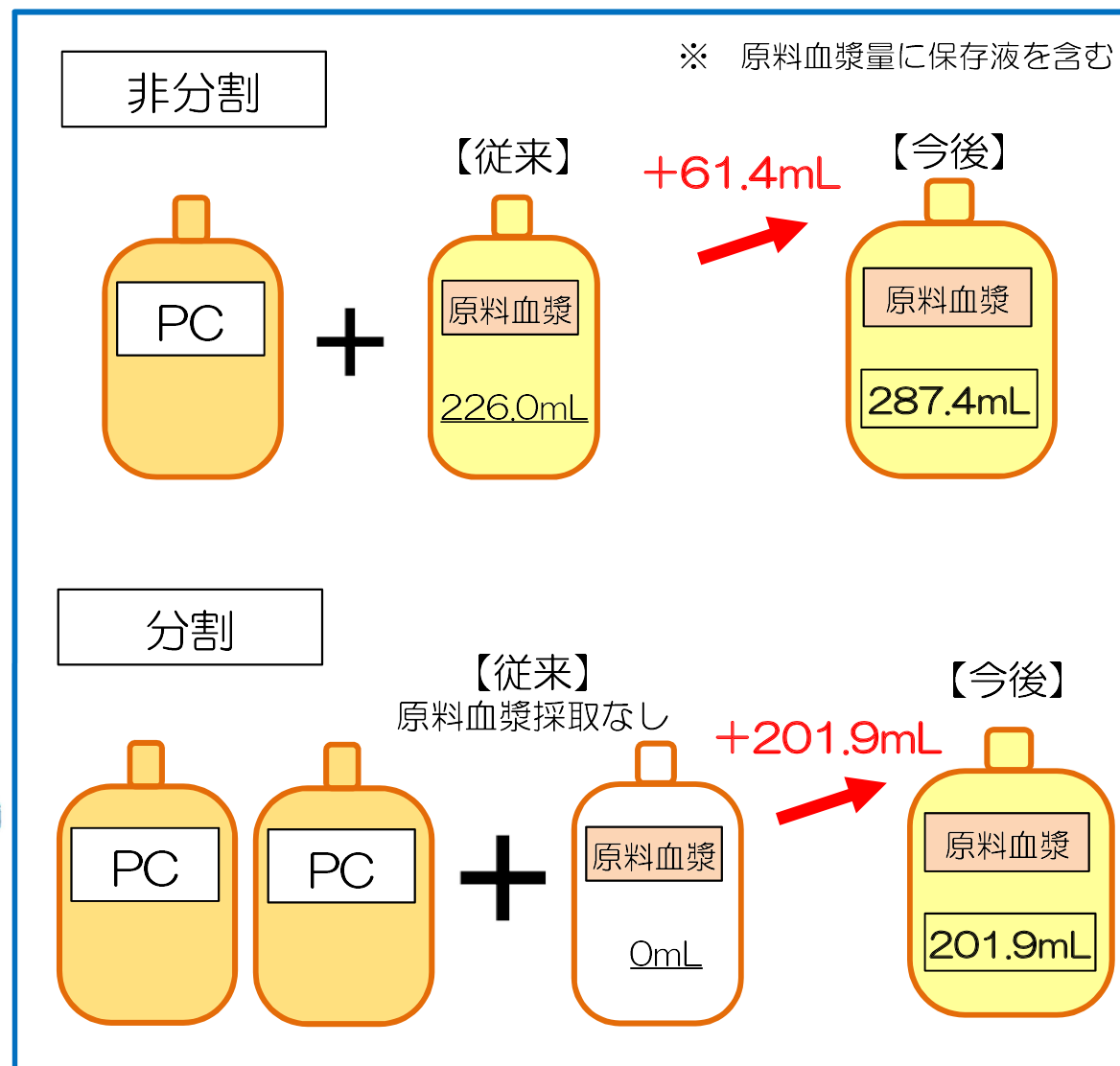
- 5 原料用血漿成分採血 1 本あたり採取量の増加



原料血漿量の確保と共に**原料血漿確保コストの抑制**を図る

1 血小板成分採血の血漿採取量の増量

〔開始時期〕 2018年7月以降 順次開始



献血者に同意いただき、国が定めた基準内で可能な限り血漿採取を行う

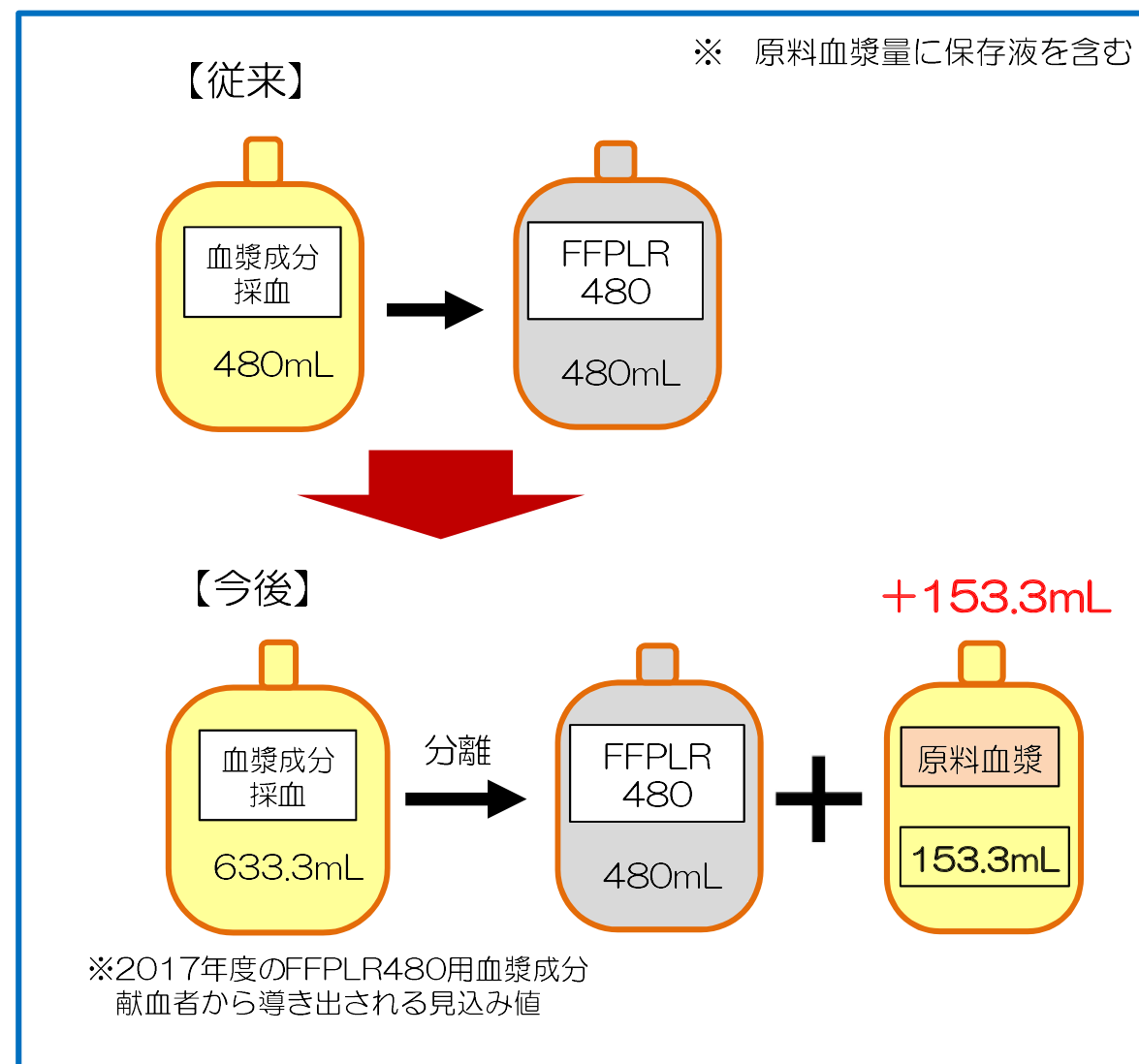
確保量 約5.9万L

2 成分採血由来血漿製剤 (FFPLR480) の製造工程における血漿分離

〔開始見込時期〕 2019年度

体重（循環血液量）
に応じた採取量での
献血をお願いできますか？

いいですよ！



献血者に同意いただき、国が定めた基準内で可能な限り血漿採取を行う

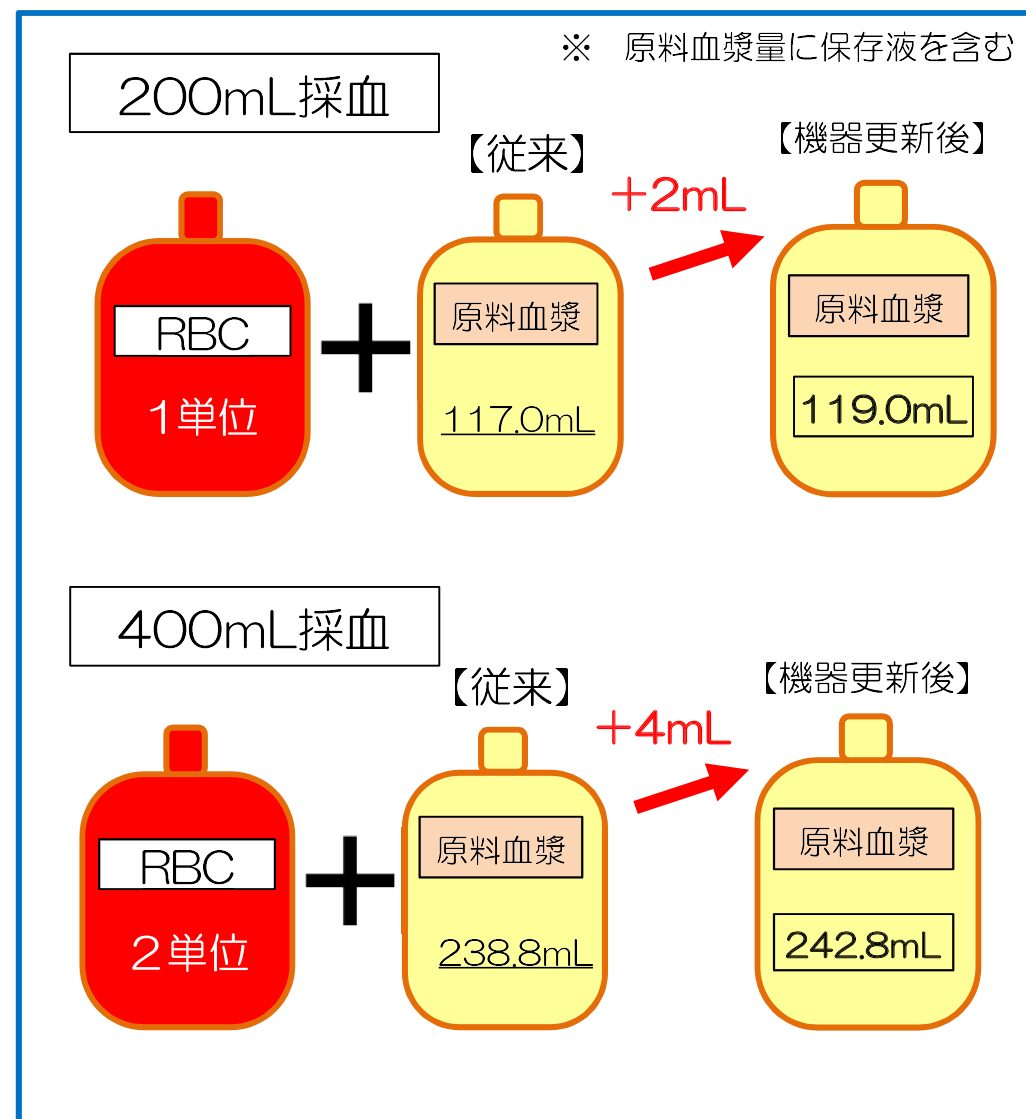
確保量 約1.7万L

3 自動遠心分離装置の導入

〔開始時期〕 2018～2020年度 順次導入



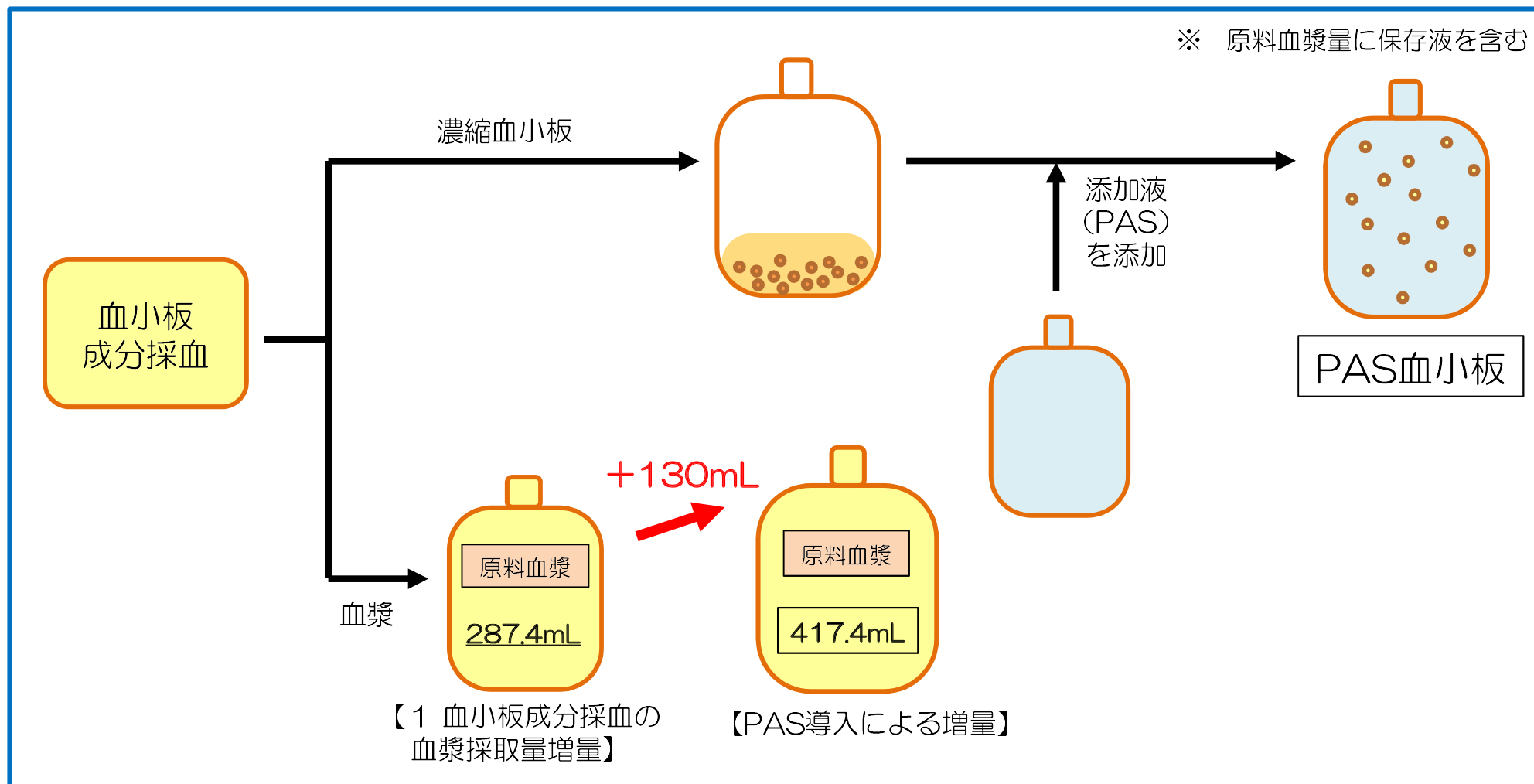
自動遠心分離装置



確保量 約0.9万L

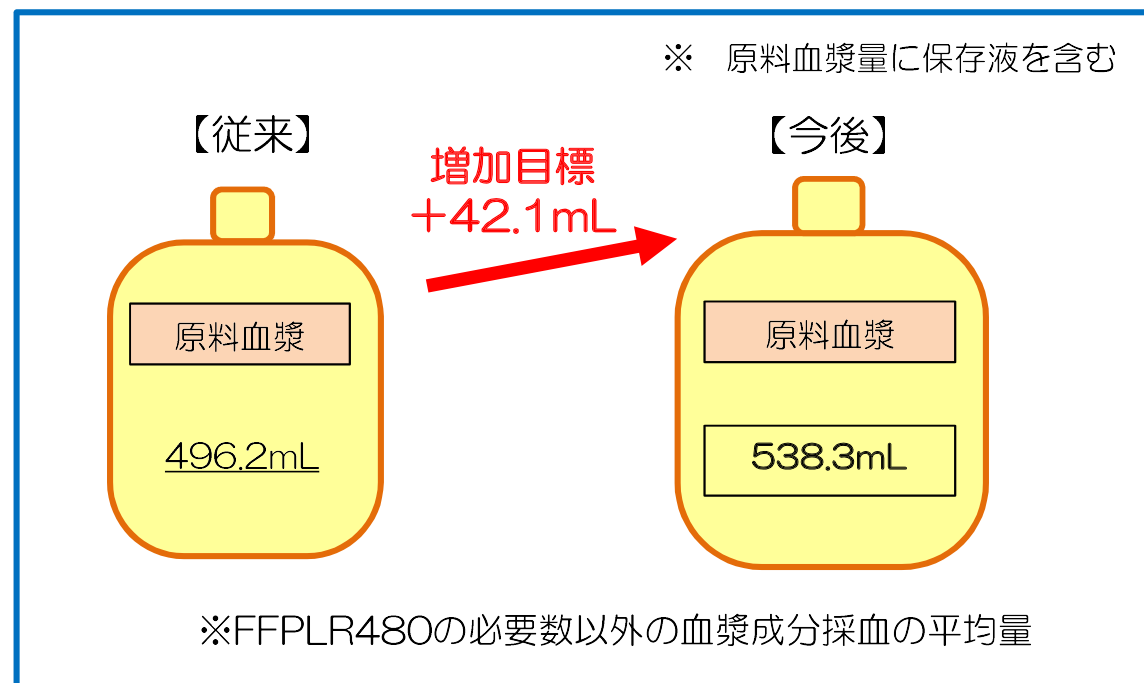
4 PAS血小板製剤の導入

〔開始見込時期〕 導入に向けて検討中



確保量 約10.2万L

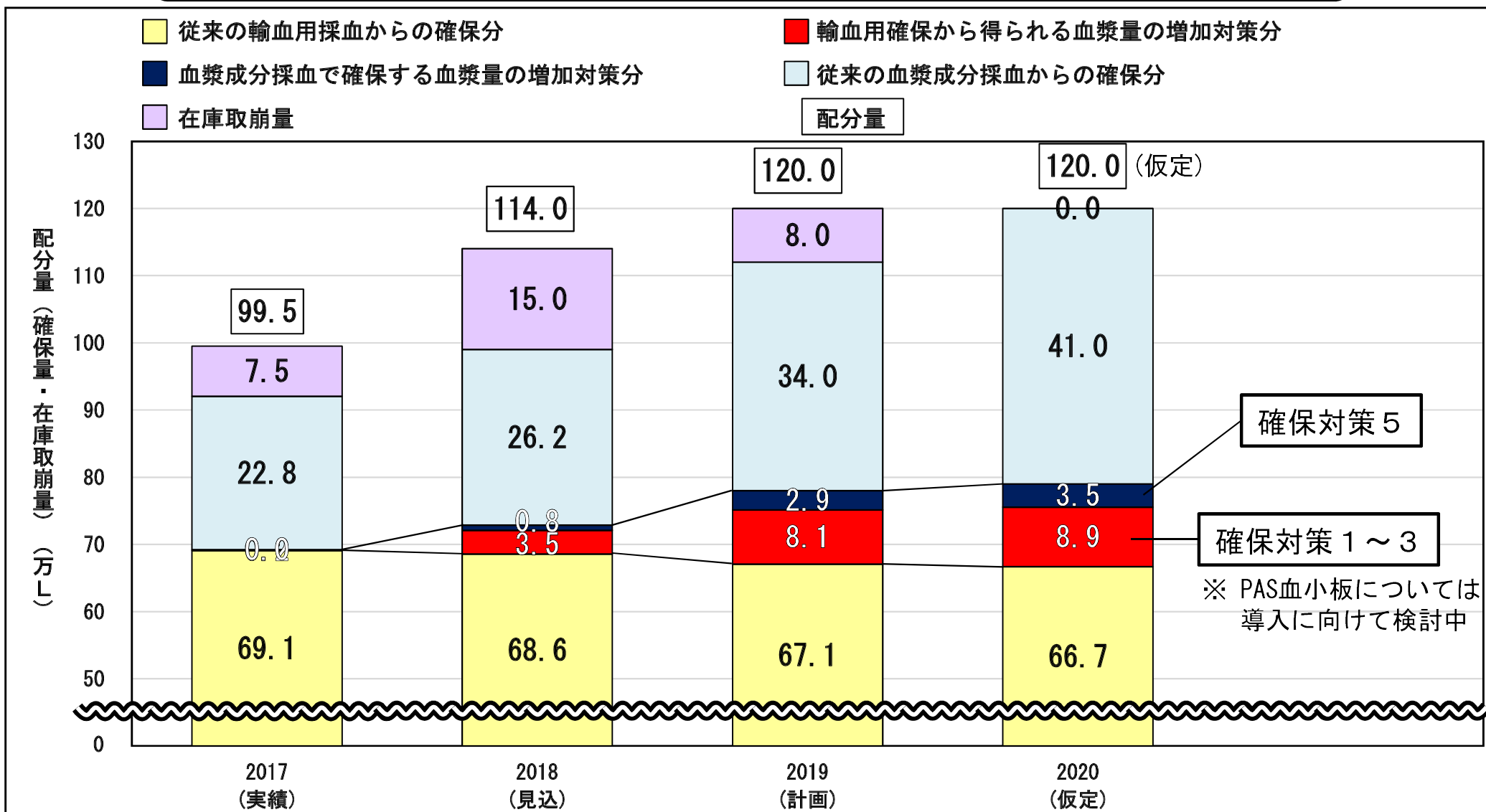
5 原料用血漿成分採血 1本あたり採取量の増加



確保量 約3.5万L

献血者に同意いただき、国が定めた基準内で可能な限り血漿採取を行う

原料血漿確保量



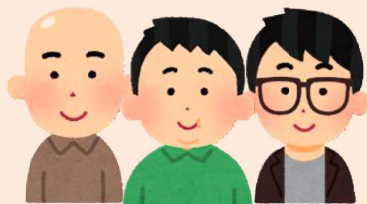
	2017	2018	2019	2020
PPP採血本数	47.6 万本	54.3 万本	70.2 万本	85.1 万本
総献血者数	473.2 万人	474.8 万人	486.5 万人	497.6 万人

献血者への献血協力依頼について

複数回献血クラブ「ラブラッド」を活用し、体重（循環血液量）の多い献血者を中心とした献血協力をお願いを行うことで、年間献血回数を増加させる。



献血者



体重（循環血液量）を考慮した献血協力をお願い

- ・ イベント情報のお知らせ通知
- ・ 献血後のお礼メッセージ配信
- ・ 誕生日お祝いメッセージ配信



- ・ 検査サービス閲覧
- ・ 献血履歴の閲覧
- ・ 次回献血可能日の確認

献血のWeb予約



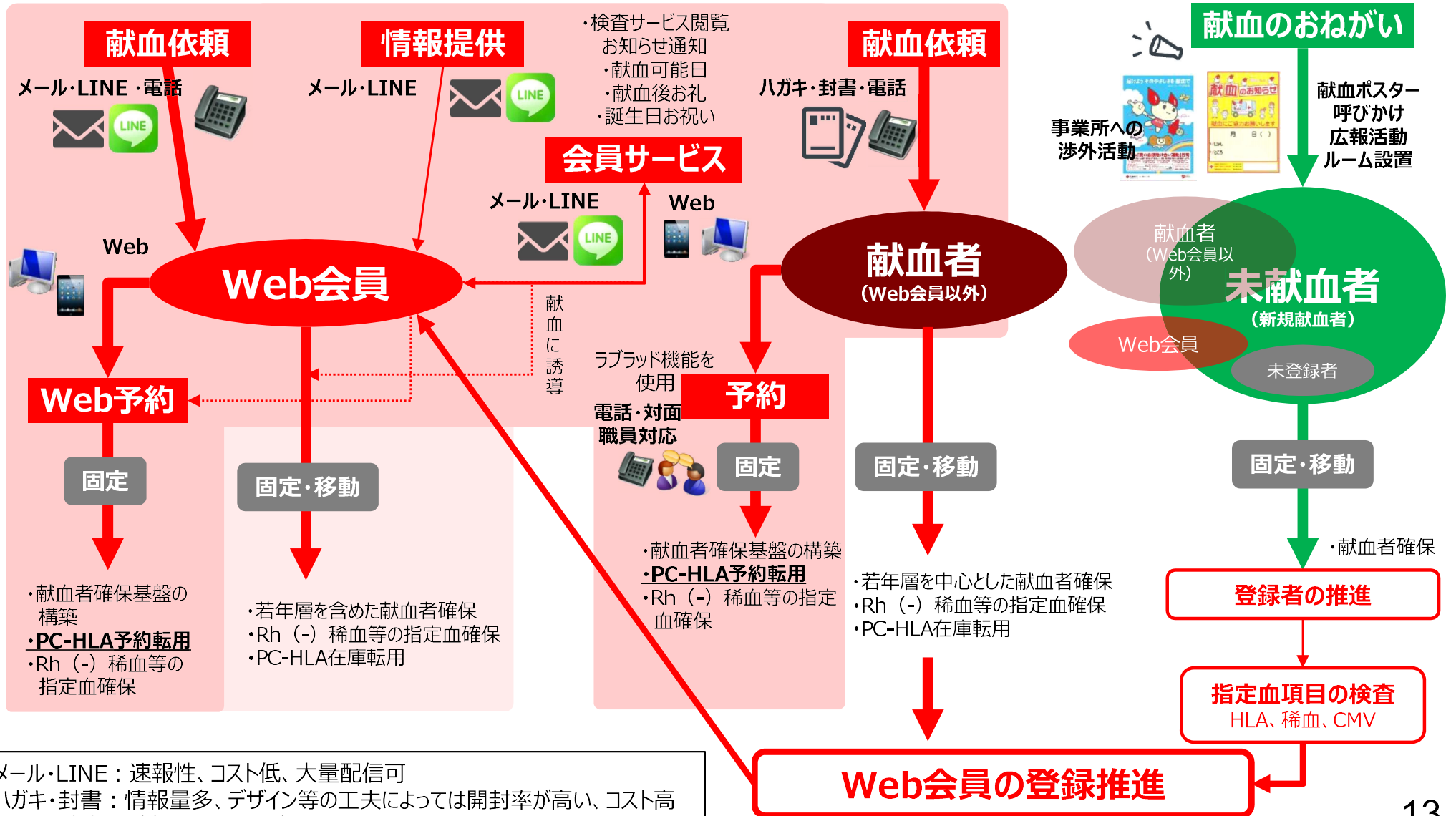
日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



(参考) 献血推進業務の全体像

Web会員化を促進し、目標達成状況をモニタリングすることで、さらなる献血者向けサービスの向上や業務効率化を進める。

ラブラッドの業務範囲



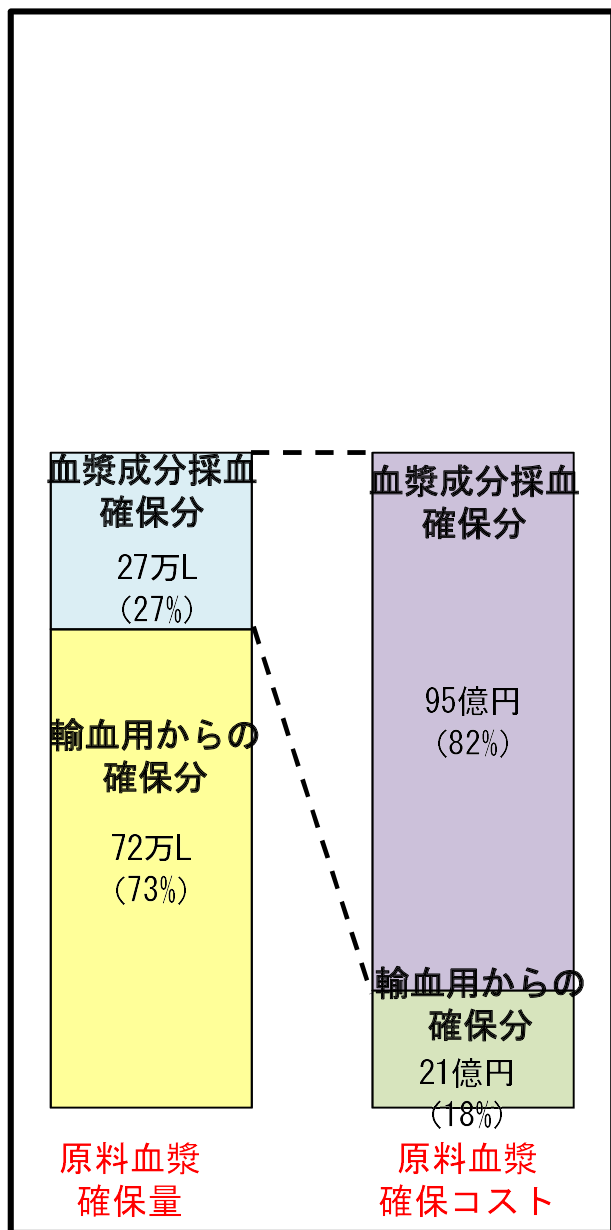
- ・検査サービス閲覧
- ・お知らせ通知
- ・献血可能日
- ・献血後お礼
- ・誕生日お祝い

- ・献血者確保基盤の構築
- ・PC-HLA予約転用
- ・Rh (-) 稀血等の指定血確保

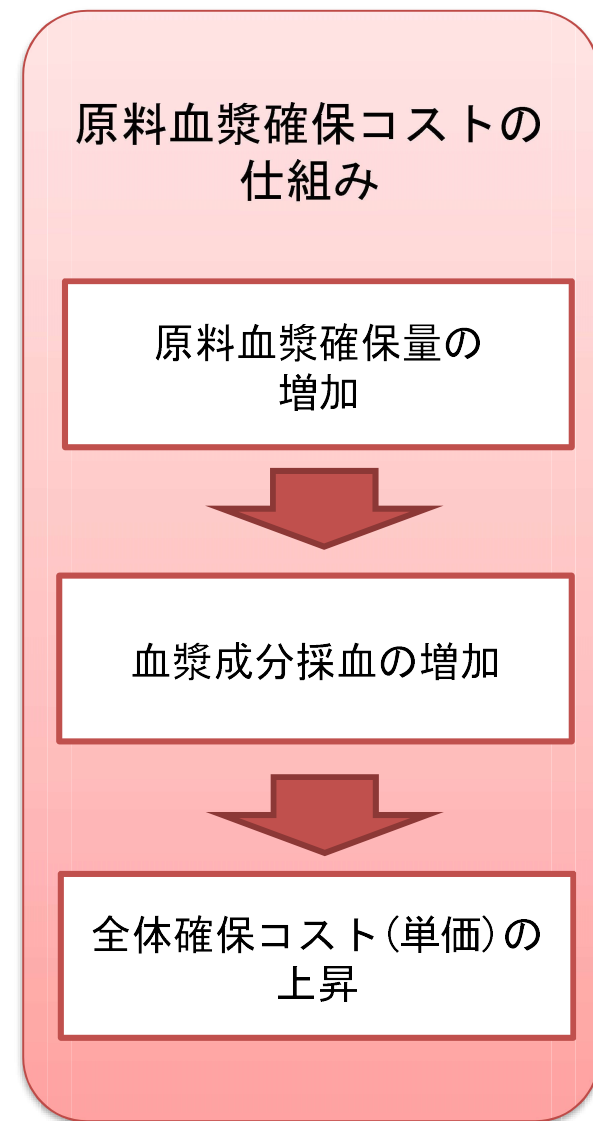
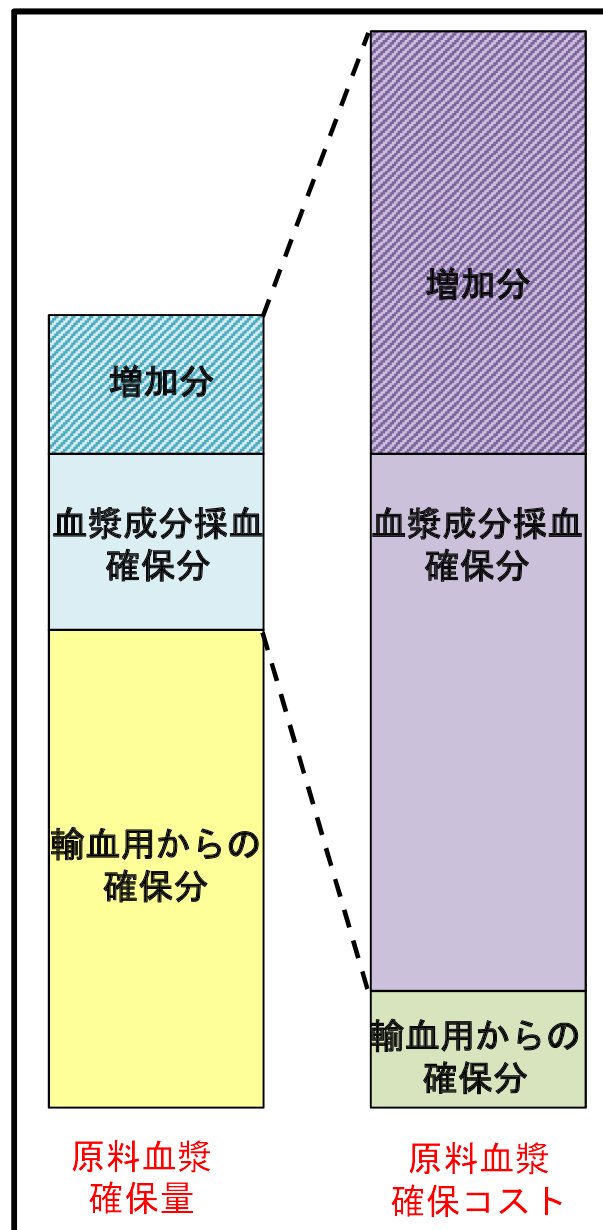
メール・LINE：速報性、コスト低、大量配信可
 ハガキ・封書：情報量多、デザイン等の工夫によっては開封率が高い、コスト高
 電話：確実性が高い、作業量が大い、緊密なコミュニケーション可能

2. 原料血漿確保コストの抑制について

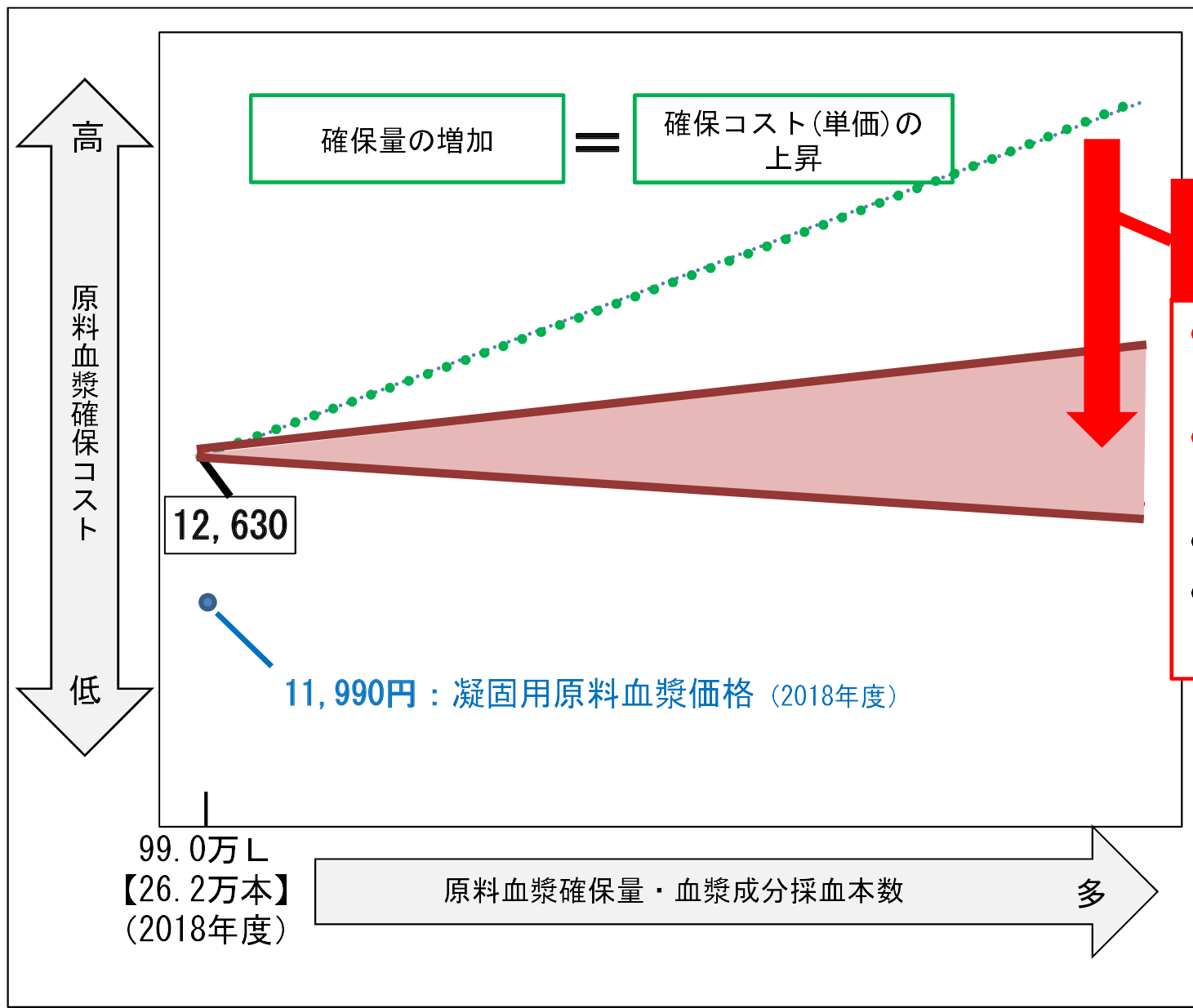
原料血漿確保量と確保コストの比較



増加 確保量の



原料血漿確保コストの抑制について



- ### 確保コスト抑制への取り組み
- 輸血用確保からの原料血漿量の増加
 - 血漿成分採血 1本あたりの採取量の増加
 - 事業の効率化
 - 資材等の購入費用の抑制
- など